詩草 二

和書門
類
二七三五七號
九〇函
五架
七冊

内閣文庫
和書
類
二七三五七
號
七
冊
二一〇
函
八
架

内閣文庫
番號 和 27357
冊數 7 (2)
函號 210 14

国立公文書館
National Archives of Japan

諺草卷之二

知第八

諺

塵積てやまとなる

説苑曰。土積成山則櫟樟生焉。學積成聖則富貴尊顯至焉。大戴禮云。積土成山風雨興焉。積水成川蛟龍生焉。新考古今集の序よ云。言ふこゝ山と。

なるものはなくともよもぎうらなるびくまぐいはひ乃ゝ。

去者ヲ追ハズ　韓詩外傳云。貪物而
不知止者。雖有天下不富新考遺教經云。
不知足者雖富而貧
智慧の淺もくらる　朝野僉載曰。人貧
知短馬疲毛長。　又古諺曰。福至心靈。
禍來神昧新考
智者ヒ千ヒ失アリ　史記韓信傳
廣武君云。智者千慮必有一失愚者千
慮必有一得。故狂夫之言聖人擇焉新考

忠ガ不忠ナルヲ　漢書鄒陽曰。玉人獻寶
楚王誅之。李斯竭忠胡亥極刑。ここの孔。
知漢ゝあり多。今うゝ〻ゝ皇ゝ
ら〻ば
忠臣二君ニつかえず　王蠋曰忠臣不事
二君。王蠋ハ齊國の人。史記
史記ニ見ユ
血すて血を洗ふ　唐書源休傳云。可汗使
謂休曰。汝國已殺突董等。吾又殺汝猶
以血洗血。汚益甚爾新考○可汗ハ回紇王ノ号
也。源休ハ唐の使者なり。

突薫ハ可汗ガ故文。
屢ばしく殺セり

中流ニ船をうしなへバ一瓢モ千金　鶡冠子云。中流ニ失船ハ一壺モ千金。新考

竹ラバるの友　幼キ時ハ竹馬を作るを友と云

世説云。晉殷浩既廢セラレ桓温謂テ諸人ニ曰。小キ時與ニ之共騎ル竹馬。我棄去ル已ニ而浩輒チ取之。故當出我下ニ新考　又後漢郭汲字ハ公ウ

乃利ニ丈ニ為テ郡ヲ移テ河東ニ移ル

時。ひまさ乃小児ニ者作るニ乗て来ル

書ニ作ニ之ニ。書紀指南曰七歳之戯ヲ竹馬之戯ト

長者の子燈ヲ多ク多女の一炷　阿闍世王受決經ニ。貧女一燈。長者萬燈と云ふ

つ。を授ケ給ヘ

地獄ゴクをすこう　荀子云越人ハ安越シヒ楚人ハ安楚これを人おなじくそ任ずるあんとス

陳ヲ之ヲ言ヒ遠ノ遠ノ之ニ同シ　新考

丁子頭カシラ　俗ニ燈花を丁子頭と云丁子ふ

似るよりてやとて子孫しるしてハ吉瑞と
なし悦ん事文類聚云。樊噲問陸賈曰。
自古人君受命於天云有瑞應豈有是
乎。賈云俎間得酒食燈花得錢財乾鵲
噪而行人至蜘蛛集而百吏喜小既有
徵大亦宜然又丁子孔しるしバ早し百
草霜ゑ火蹠すれバ石晴と云。蘇子瞻
秋陽賦云。釜星之雜出又燈花之雙懸
奴婢喜而告予曰。此雨止之祥也

俗語

重寶　戰國策云懷重寶者不以
夜行又史記周本紀ゑ子出さ
珍重　朱子感興詩云。珍重無極翁。性理
大全注。珍重贊美之詞ゑ又僧史
略云臨去辭曰珍重者。何此則相見既
畢情意已通囑曰珍重。猶言善加保重也
張本　これいおよ切あるものを云て後ゑ
ゑべきゑの基をなゝ左傳隱公五
年傳注ゑゝゑり。書言故事云豫爲後

地曰張本

停止　梁書云。便可自今停止

中絶　朱子文集云。中絶不聞此等語

近者　曹子建ガ七啓ヨリ出ル　○間同者

漢書文帝紀ヨリ出ル　○延同者　漢書

昭帝紀ヨリ出ル　○乃同者　漢書成帝

紀ヨリ出ル　○頃者　報孫會宗書ヨ

リ出ル

遲速　左傳云。剛柔遲速高下出入

恥辱　論語ヨリ出ル。心ヨリ恥ヲ

云。人ヨリ恥ヲ受ルヲ辱ト云。

中間　俗ニ中ヲ間ト云。古今英

雄ヨリ中ヲ間ヲ云。

畜生　俗ニ禽獸ヲ畜生ト云。禮記云。鸚鵡能言不離飛鳥。猩

猩能言不離禽獸。今人而無禮。雖能言

不亦禽獸之心乎。史記秦本紀云。人頭

畜鳴。正義曰。胡亥人身有頭面目能言

語不辨好惡若六畜之鳴○涅槃經云。
象雖大夫行同畜生。乞沓俗の格之
又色葉よ。隋文帝煬帝は淫逸と云
〻。畜生もしい〻〻

知音　親し兄友を分ると云。列子曰。伯
牙鼓琴。鍾子期善聽。伯牙鼓琴。志在登
高山。鍾子期曰。善哉峩〻兮若泰山。志
在流水。鍾子期曰。善哉洋〻兮若江河。
伯牙所念鍾子期必得之云〻。呂氏春

秋曰。鍾子期死。伯牙破琴絶弦終身不
復鼓琴。以爲無足爲鼓者。諸ゟ伯牙と
鍾子期は。知音人の格。男女恋
通ゟ事を知るし云。同人は得ゟれい
共色すべきゟ。
琴乃書を〻しゟ人はきゟ
琴
今ぞ立いそ〻を城もしべき
地形　史記秦本紀ゟ出り
蕞爾　日本紀ゟ例を出ゟ。少小の字なども。

ちいさきものを

逐電　王子淵聖主得賢臣頌。追奔電逐遺風とはかけるの後ろをそれ人のまけるをもて孫をもて電とこそ。

智慧　孟子公孫丑云。齊人有言。雖有知慧。不如乘勢。○老子經云。智慧出有大偽。王介甫註云。智者知也。慧者察也。又名不集肇法師云。決定審理謂之智造心分別謂之慧。韻瑞云。慧通作惠

地主　國語越語より

特　放合の時。ゆ。ゆ。同じくて。落ち。たりさとぢよるとそけ字。

重半　奇偶の数。

重疊　宋玉高唐賦。重疊增益。又翟方進傳より。

〻ハ濫ス。

長技（チャウギ） 前漢書晁錯傳匈奴之長技三。中原之長技五。廣韻技藝也。又方術也。俗よ。はを傑ゐるをでうぎと云ハ。調議の字

瞀（チョウト） 說文云。過目也

中央（チウアウ） 詩經蒹葭篇宛在水中央。

遲〻（チチ） 孟子。孟子去魯曰。遲〻吾行也。去父母國之道也

中途（チウト） 晉尤思詩。出門無通路。枳棘塞中途。

智畧（チリヤク） 史記田叔傳褚先生曰。今取富人子又無智畧 文選玉元長策秀才文。湊其智畧

中興（チウコウ） 漁隱叢話云。藝苑云。凡王室中微而復興。謂之中興。宋史筆斷云。中興者謂中於理而復興也。今皆作平聲誤矣。中興の中字。なかごろとよむ。ハ去聲

也。なるごろとも。むかしの年寄

昵近　韓非子云。伊尹身執鼎俎爲庖宰

昵近習親

遲鈍　前漢書翟方進傳。遲鈍不及事

聽聞　書經仲虺之誥より出

齷齪　埃囊抄。ちくるとよりて。字

彙云。急促局陿貌

正譌

蟄居　おのちいさきをゝ。ちつ

ちつこと云ハ並誤　細刀　ちゝ

刀。ちさ　地黄　煎ちん。ざろ

ん並誤

諺

利　第九

綸言如汗　綸言とハ。天子の勅をゝ

禮記緇衣篇云。王言如絲。其出如綸。王

言如綸。其出如綍。綸言の二字ハ出

より。如汗とハ。綸言下りて再ゝ返ら

ぬ。汗の出てゝ返らぬがごとしなり。

漢書劉向傳曰。號令如汗之出而不返

者也。号令とよむ。

とゝ。ト云をなせ。　法をもつ。号令を

紙よゝ方乃口をゆゝくゝ下知せしとゝ。
周官以兩造聽民訟とはつゝ。造とい。
爭をたゝしたる者。あるひとは皆那方ゝ。乾造
乃ゝ子同し。史記鄒陽云。偏聽生姦。乾
造あるゝくゝ下知をうせしのゝゝ。片
口をゆゝく決されは必はやまるゝ 新考

良藥口苦し 說苑正諫篇孔子曰。良
藥苦於口利於病 此段多見史記張良傳 良藥苦於口利於病

俗語

律儀 乾い佛出よりの字ゝ。法
律はつゝく儀則ゝ。ゝをゝ。圓覺經云。
不令衆生入不律儀

利口 書經畢命云。利口惟賢論語陽貨
篇子曰。惡利口之覆邦家者。利口とい口
ゝて。乾をはよゝ云たゝ。非を乾よゝ云な
ゝやゝ乃人をゝ。今俗よ。有才者をゝ。を
ゝ。利口ちんとゝ。称ゝ乃ゝ何とゝ
ゝゝゝ遠ゝ。

利根　法華経云。正見邪見。利根鈍根。今俗人利口といふ。利根といふ義なり。

陸梁　張平子西京賦。怪獸陸梁。注。綜曰。陸梁東西倡佯也。○類書纂要云。陸梁猶強梁也。嶺南人多處山陸。其心強梁。故曰陸梁。今俗人多怒を含める時の義を。陸梁とそも。強梁なり。

六義　詩序曰。六義始興。雅頌見焉。風賦比興。雅頌見焉。風賦比興。今俗人多用之。六義を分ちとと云。

離別　陸龜蒙詩云。丈夫非無淚。不洒離別間。字彙云。近曰離。遠曰別。今俗子書を屏を。離別と云ふ法。

臨終　死ぬる時を云。文選晉歐陽堅臨終詩。鶴林玉露云。歐陽公問一僧云。古之高僧有去來儼然者。何今世之鮮

僧云。古人念〻有定慧臨終安得而亂。今人念〻在散亂臨終安得而定。公深然之

理窟　晉劉恢傳張憑勃窣爲理窟。唐包融詩。一談入理窟。再索破幽襟。文選任彥升齊竟陵文宣王行狀。非意相干。每爲理屈。已之今以理屈入之。

流涕　史記高君傳。秦國男女流涕。已注。

流行　易云。品物流行。

利息　史記孟嘗君傳。貸錢者。多不能與其息。索隱云。息猶利也。今俗。借物の利息と云ハ。是なるべし。息と云たるなるべし。

臨時　一切の事。皆恒例なるべて。かゝるべらん。恒例の外。時のぞうなれを臨時と云たり。源氏帚木巻。とつとん

乃ちくはのそこのとなり。

慮外　邵子詩云。雖曰天時亦人事誰知慮外失良金

離散　孟子云。兄弟妻子離散

正譌　利運　ろまをん呂律ハ誤　言語のさいやうあらぬ俗よ。呂律がつるいと云。

ろまつがつるいとゝハ誤

奴　第十

諺　盗よ鑰　盗人よりかをけりの猶之。戰國策。范雎說秦王曰。此所謂藉寇兵而齎盜食者也。ものまゝ盗よ糧しいとゝ

俗語　温　俗よ。人性の爽利ならぬ者をさらく。温と云。温湯と云と同しこと

なり。をの字邪。温湯乃手下考ろくし

泥滑　面の後道ちかれく。泥乃ぬかり泥

なり。濘の字を用へし。唐書武后時。水浸閉坊門楊再思入朝車陷濘吒牛不前人の氣九優なりとぬかるを濘乃めやうるを泥氣をつくるなり。

正譌

布の誤

留 第十一

諺

類をもつてもつて吉凶行の類をもつてもつてるるを云。易繫辭云。方以類聚新考

俗語

流浪 陶淵明集祭從弟敬遠文。流浪無成

留守 史記呂后本紀。呂后年長常留守希見上。留の字こゝよりなり。書言故事云。守舊京者曰留守唐制車駕不

在京則置留守。唐李晦爲西京留守。斐度留守東都。宋朝紹興八年。召呂頤浩付以建康。建康今南京是也。又云金陵知建康者。曰建康留守。こゝまでよりこゝまでおもうこゝまでゝ。天子出巡乃治事を為り当る者をさして云。今治ようが職ようこゝまでゝ。ゝ。僧上の何なるゝ。

讃

遠第十二

弱者久しくすると平家物語。おなじもの久しくすると。老子曰。自敖者不長。布逸註云。不長。不可久也。

そもそも子は從ふ 儀禮曰。婦人有三從之義。無專一之道。故未嫁從父。既嫁從夫。夫死從長子。故父者子之天也。夫者妻之天也。禮記穀梁傳乃後。然て小子は從ふと云。後こゝは母乃事すして。

父乃子ニ従ふと云義なし

恩ひ内ニ深きハ色外ニ露る。大學云。

誠於中形於外新考淳于髡曰有於内必

形於外孟子又形于

色ふかきハ色ニ出るなり口ハ言ハ

拾遺 ものや行ふとハ乃ちふまく

恩を受ハ恩を忘れハ鬼畜乃如し 説苑

簡子曰。唯賢者爲能報恩。不肖者不能。

こ乃後俗の後乃ちと同し。狶狐ハ

子孫ひるゆを忘れハ恩を受ハ報ひる人

なるを人ハ誅ふ多然すれハ報ひるゆ。新考

先ふるを父ともせよ 曲禮云。年長以倍則

父事之。俗後ハ子ハ父ニ

女ハ家なし 女以夫家爲家。夫ハ家

乃家なり。父母ハ子ハ従ふ

と同そ。新考

女児のふ用ふ ず 史記陳平世家

曰鄙語曰。兒婦人口不可用。誅ふ和

漢書に云ク
御鬢の塵を去ル　皆ハ媚諛追從を
乃を云ふ。事文類聚云。魏萊公爲相。
丁晉公參知政事。嘗會飲都堂。萊公
鬚。謂起拂之。公正色曰。身爲執政親爲
宰相拂鬚耶。謂慙ごの事世話よく
叶へり　謂ハ。丁晉公
御前追從を以て必媚して諛る　莊子
曰。好面譽人者。亦好背而毀之。

思ふ子は旅ふせ。人の子ふり者。ゆよりを
ちふ。父母の生育を懷く。世ふの人情
乃險惡なるを。ふくぶまハ。ふを立る
事ふふ。ゆよ。定ふ子ほど旅よ
出して。鏡見をふてばふ云ふ。むかふの
河ふ。程子曰。在旅之時。謙降柔和。乃可
自保。而過剛自高。失其所宜安矣
狼よ衣ふせちふ。人の惡性ふふ。狼
乃衣ふふふ。人乃飛ふふふといへとを。

人ハ富貴ナレトモ貧賤ナルヲ云ヘリ。史記曰。齊王毋家駟鉛。惡戾虎而冠者也。老後のそうめい。

ヲモニ　ヲヒ
面に髯よ小付　後撰集賀部よ。今上御壺

よ花ハ　まゝ　時。菊こそ　なり　ゆ　ら
山人の　ま　る　菊　い　ら　ん

多くの年をつまんとそ思ふ
年の数つもるたなそこ花のよい
いつ返し　御製

陰陽師ハ方ノ上ニ考ルベシ　顔氏家訓云。世傳云。解陰陽者爲鬼所嫉。坎壈貧窮多不稱泰。吾觀近世以來尤精妙者。唯京房管輅郭璞耳。皆無官位。多或罹災。此言令人益信　新考

たとふ人いかゞしらんとなん

世のうれめ人ぬ山ゆよいそんよい
夜　物部良名
ねもよ人へ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
鬼よ癮　宇治拾遺物語よ

まぬむ。或人山路より行暮て。俤なる杣
樹より一夜をはらやせり。夜まぐれよりは鬼
乃やうなる人。大勢集り来りぬ。の
人これを見て。ぬ行そろしさるもの
行とひそり。まぐれ有て鬼ども酒
宴をこしめくうしろ人集り。其人行
きろく行とひて行そろしさるものを打
ものをまぬ酒宴乃座まもりて鬼と
ともに集りぬ。夜ともやうくはらく

よなりそれぬ。鬼どもう乃人より向く曰。
んぢうをまくこてよ。ぬそぬへし。
約束をこゆるなりまとくぬ。其人
乃額より有そう瘻を質よりくをを
ぬ。れ人ろこびあはりまうのの
をそうそれぬ。人くまくぬ年久く
まく瘻をとくまてるぬ。仕合なりと
ろこびはへうそりぬ。其人乃傳より瘻
はる人おるものをまてぬらやまくれを

そぐさんの村来の中をとほりゆき。一
夜をあかしけれバ。あんのごとく夜すえ
かりよ。又鬼どもきたりて。あれをく酒
宴しけるひ舞けるが。とかくの人。それ
中よりうちましりて。あそびけれバ。鬼ど
もみなよろこびくりて。つくしくとひ。留を
さげ人もちかくよりきたり。それ質物をとれ
とさんとあかなくし。今ハまかへとぞと
くぶとこころ。癭をとれ出し。諸の人

の額よたけ付たまし。ハ癭のうへよこぶを
かくまして。皆くしたるよ傍りそろとそ。是徐付

よて世の人此ゆめも行迹をとしやと。やそもみなよろこびまれ
故事をひく。是の戒としたるへし。謙よけすほと
ねく人は。凝人の
面おもよ。是を避し。

落武者ハ芒の穂よをぢる　是ハ落武者
よろりてハ。胎病人ましりて。草木まじ
人とらへあかして皆とるすこし。晋氏謝
玄といふ人。軍立して。賊の大勢を討
やぶりて。是をおよ。賊の兵のがれさり。

祖母こうして後。八公山の草木のこ
くをうえて。謝玄が軍兵とするとし。おそれ
しあり。又日おすし。ゆあの軍擁れ多
多のあをもるよ落て。敗少せしすぐ。皆後
のことのめしし。

俗語

擁護　後漢書劉盆子傳より出

恩賞　唐書云。恩賞亦厚

恩借　通鑑漢和帝記云。皆加恩借

侵　左傳僖公二十九年云。凡師無鐘鼓曰
侵

襲　又云。凡師掩其不備曰襲

誘　日本紀の訓よみ

温湯　明田藝衡留書日札云。今人
以人性不爽利者曰温暾湯。蓋言不冷
不熱也。日本くに。温湯といふ。
たれ　俗よ。ある方をさして云ふ。ロ
とをとををつれと云ふ。又日本紀

神武紀ニ爾をなましと訓せり。注ニ爾此云
飫例とはつじれのましと云中畧之。
大息(ヲホイキ)　莊子天運篇ニ云。豈直大息而言仁
孝乎。史記蘇秦傳ニ云。仰天大息。索隱ニ云。大
息謂久蓄氣而大呼也。類書纂要ニ云。大
聲嘆曰大息。言人慨嘆則息大而長。故
云長大息。後人作太息誤。
御臺(ヲダイ)　俗にも飯をのせる臺といへば。此詞猶遺れ
花抛に流などもはつめて臺上に飯を
く合はせまゐらへ。上にのきこしめし御
飯をいへ。御臺といふにや。
面白(ヲモシロシ)　天照大神天窟(アマノイハト)より出給ひし時。
高天原及葦原中國おのつから照明な
ることをよろこび。衆の面(ヲモテ)明に白し。是
よりおもしろといへりけり。日本
紀古語拾遺に出たり。
哭(ヲラブ)　神代巻に。哭の字をおらぶと訓せり。
哀鳴をなくといふ。萬葉集第九巻に。叫哭(サケビヲラビ)

とはつ。俗よるる事よ物いふをうこ。れ
らぶ。と云ハ諺ニ。
御前（ヲンマヘ）人をうやまひくれまへとゝの事。
枕草紙よはつ。ものきいのくいぶ。よなら
ぬ。ものゝ。くるたまへ。こちらなしいぶとはつ。
縫帯（ヌヒヲビ）　俗よ。何の乳をとなれを苦ーを四
ゝ。ふ。と云。ぶ。事漢書匈奴傳ニ出り
れ。ぬ。のゝ　八ゝ。ぶ。よ。れ。ぬ。のゝ。ゆ。ゝ。ゝ
よ。ゝ。ぬ。ゝ。ゝ。ゝ。と云ゝ。とはつ。俗よ白

らゝ。ゝ。ゝ。ゝ。大やうなり祈を。れ。ぬ。乃。さ
と云ハ。れ。ぬ。のゝ。ゝ。れ。物ぜ。ゝ。ゝ。れ。ぬ。新ゝ。ゝ。ゝ
よハ。れ。ぬ。ゝ。ゝ。ゝ。はつ。ゝ。ゝ。乃字なり。靜
なる祈りとい。ゝ。り。
落魄（ラクハク）　史記酈衣其傳云。家貧落魄無以
爲衣食業註應劭曰落魄志行衰惡之
貌評林云。貧而無家業也。晉灼云。落薄落託義同
想像（ヲモヒヤ）　楚辭曰。思舊故而想像　東坡詩。
想像賦高唐

ハ兒　俗ようなるを小兒と云ハ。正
月元日ハ天子居蘇白散を喜女乃未路
せざるはなめそめさせ。是後さて
めしに是ハ怒る詞之。後ハ合ふを後
れと云也。此義之
越度　居家必用註越度謂關不由門津
不由濟者
鞦韆　韻會齊謂多爲鞦。方言凡物盛而多。
齊宋之郊謂之鞦

悒　日本紀應神帝紀ハ人名。字彙云。
音揖不安也。第集ハ前乃字をれ
ゞりなしとあるも
應　陳選云應謂應尊長之呼。今俗ハ人
乃和りひけるを
ちぱ字之。
ちぱ　俗ハ撥をはねしと云。又拂
ハ之と同さ之。晉書魯褒著錢神論
其畧云。無翼而飛。無足而走。こまを

又まこの歳を行はしと云ひ。あなたよりは
らび。白玉蟾集雲遊歌云。初到家山
辞骨肉腰下有銭三百足
汗面　俗よ。恥辱を蒙りなりそれな
さ歳ちの者を。汗面ぬりと云ふ
乃字なり又
嗚呼　俗よをこの点をこゞ中なり
く人を嘲り笑ふ云事。後拾遺よを
こゝ角しくなりと云ひぜんよ

為れ八郎氏蓮生者よ人ひ〳〵ていを
こなしんとはくまよ野槌よ云をこ嗚
呼ちうちうたりと云義又世俗よ
考れものなんと云我成説よ云嗚呼
八郎悔乃字悔八國の名を俗
冠ふしく。毒たのまが又兄。
人よ教さなまてを仇を報んとへを
ころされしなりよ絶人すくを。を
ひをるを者を打教。をちを見よく

らく勇めるものを。惜懈の者と云と
や。好古抽と云ふ。説話之日本紀第
十。仁徳天皇乃五歳。于古と云ふ人ハ
邦上代ちり乃やもと。但之惜懈乃國
の事を云ふく。詞よりよハ詞ふ。

穩便　朱子文集。未爲穩便ト

卸　増韻。舟人出載亦曰卸。荷物をおろ
すと云ふ也。

餕餘　曲禮云。餕餘不祭

大率　史記平準書より

送越　をくりこしく。茂卿の説ハ
東風ふりぬすりひをこせよ梅乃も
はるこ乃ちらしとゝくまなよすれ
土佐日記より。梅をれこせらしと乃事

国立公文書館
National Archives of Japan

正譌

御主おのし。ワぬし。ワぬし。遠近あちこち己ハ誤

御首おぐしハ誤　御乳人おちいハ誤　狼おかしおぬゝあハ誤

教おすゝる。お　呼ゝめく。とハ誤　自おのつとえハ誤　偽引

すひくハ誤　重おもしとき。又おぼゝハ誤

諺

和

禍はわざわいとする　傅玄口銘曰

従口入。禍従口出　孔子家語云。口是

何傷。禍之門也。

楊子雲曰言輕則招憂文中子曰禍莫

大於多言

禍を招く　左傳曰。禍福無門。惟人所召。

ものさわがしをさいくとうる。老子

云。禍兮福所倚福兮禍所伏

綿（ワタ）は鍼（ハリ）をつゝむ　小人乃交（マジハリ）は形（カタチ）なしの花（ハナ）をはゝらしめ　君子（クンシ）は悲教乃人を
いとゝ云流之。孟郊詩云。結口頭交。
肚裏生荊棘。綿（ワタ）は減（ヘラ）をつゝむ云
同之たとへ。
和光同塵（ワクワウトウヂン）　老子經曰。和（ワグ）其光（ヒカリ）同（ヒトシクス）其塵（チリ）
智乃人之光をやわらぐ流しとく。孔子
を和光と云世はひ塵俗乃中は
混しとく時を知乃を同塵と云。

つゝ乃をはんとくゝ乃いさゝ之を　論語
曰。己所不欲勿施於人。俗乃後と云
同　新考
つゝ乃乃人　韓子曰。古之人目
短于自見故以鏡觀面智短于自知故
以道正己。己を流しと云矣すゝ之
同　新考
我拙（ワカヒノカホ）　恥（ハヂ）
交の疎い之すゝ之を月を

つうとの和よりうけそそそ
山めくる時面乃やとうゝそそ〳〵
つうとのうまよりうとゆゝん
和歌よ師匠ゑ
俗語
よ師匠ゑ
歌を詠ん時とん。
ゑらゝゝ不よ福寿海
氣致祥幸氣致異 新考
つめ
也地堪よ云。地吾乃字を
つゝゝもゝゝ人をゝゝ吾子ゝ云

和合 韓詩外傳ニ天施地化陰陽和合ス
和睦 孝經云民用和睦ス
私 韻府賤私某也儀禮家臣稱私ス
若 韻會云今人謂弱爲若按曲禮ニ十
曰弱
割符 韻會云說文符信也漢制以竹長
六寸分而相合以竹付聲司馬遷云遷
之先非有割符丹書之功ふれよりの内
ゝ割符とゝゝ竹を

あはとり。名一を紀ノ字を時ハ。ほよ也
金ゝ。説撥と云ゝ。漢文帝二年。南國
ものよ。ゆゝ。細尾芽。竹。仗芽を作ら
しめゝ。京師の子。ものよ。倩。これを者ま
を。ゆゝ。だハ京師よりそ。あたハ邦守よ
ゝ。ゝ。史記漢書よりも。帛よりも。ゝ。
ゝ。ゝを。ゝを。ゝと云。漢書終軍傳。注よ
ゆゝ。倩よ。割符と云。ゝ。ゝ。ゝ乃事ゝ
怒れゝ用之

倪 楚辞。余倪傑ゝ。王逸注。失志貌
横逆 孟子離婁篇云。其待我以横逆
横道 邪よりゝ。邪ゝを。倩よ横
乃と云。韻會云。横。不順理也
枉惑 倩よ。人を欺ゝ。迂ゝ。ゝ。倩
者を。ゝ。ゝ者と云。枉字之。
汪洋 倩よ。人性の拘泥ゝを。ゝ。ゝ
云。枉字。ゝ。汪洋。廣大乃貌
移徙 司馬長卿。難蜀父老書。民人升降

移徙

往還　李白詩才高多感慨道直無往還

往來　曲禮云禮尚往來

吾儕　左傳宣公傳吾儕小人

正譌　横逆ハ誤　縱横ハ誤　藁心ハ誤　童子ハ誤

加

第十四

諺　風枝をなでぬる代　西京雜記董仲舒云大平之世風不搖條新考王充論衡曰大平之世五日一風十日一雨風不鳴條雨不破塊こゝ乃人を示す

千家物　ふく風を枝をなでぬるこゝ乃枝をなでぬる　家語孔子

上を学ぶ下　孟子曰上有好者下必有甚焉者矣　左傳臧武仲云夫上之所

為民之歸也　後漢書云。吳王好劍客。百姓多瘢瘡。楚王好細腰。宮中多餓死。淮南子云。靈王好細腰而民有殺食自飢。越王好勇而民皆處危爭死。河上公云。上行下必隨。

壁ヨ耳ノ下ヲ　詩經小雅小弁之篇。君子無易由言。耳屬于垣。事文類聚後集載姚元崇口箴。其畧云。多言多失。多事多害。聲繁則淫。音希則大。至本無暗垣亦有耳　管子云。古者有二言墻有耳。伏冠在側　新考

渴ヨリ井ヲ穿ル　素問四氣調神大論云。譬猶渴而穿井。又說苑雜言篇。譬之猶渴而穿井。けいこをはよいの掘ようなり

烏ノ白クナリマデ　太史公曰。世言荊軻其稱太子丹之命。天雨粟。馬生角也。太過索隱曰。燕丹求歸秦王曰。烏頭

白馬生角乃許耳。丹乃仰天歎。烏頭即
白馬亦生角。風俗通及論衡皆有此說。
事文類聚別集還鄉門引遊歷紀聞
云。燕太子丹爲質於秦。不禮。乃求歸。
秦曰。待烏頭白馬生角當放子歸。太子
仰天哭。感得烏頭白馬生角。秦王大驚
遣丹歸。應劭風俗通云。據史記爲之。鄉
里俗說其實無此事。原其所以有茲語
者。丹寔好士。無所愛惜也。故閭閻小論

飾成之耳。又和歌。太子丹ゑんの子を
しんぢすかりらこと白くなるとよそう
後撰 ひがしへさきはやそうしん
河ならハ河でもかりる法よりくあるを
游くとおをかぢとも云。淮南子曰。夫
善游者溺。善騎者墮。各以其所好反自
爲禍。
河中ようハくそど人中よ立まじ。白氏文
集大行路云。巫峽水能覆舟。若比人心

是安流。こうをよ毋てよべさう
片はゆ多く犯をつけなを見い人の弟論
毀誉を。片はもりゆ多くへ。見れを見る
なとと云ふ。前漢書鄒陽曰。偏聽生姦。
獨任成亂 魏徵曰。兼聽則明偏信則
暗。見皆流のうこつよ毋をり 新考
瘡ゆよ乃ゆ。杜牧之詩云。杜
詩韓集愁來讀。似倩麻姑癢所抓
かとぐよ迄分貧乏なし 左傳云民生

在勤。勤則不匱 陶淵明の詩
貧誼勝禍。見流と云ふ 新考 説苑云。力勝
鄉。よ八くハ。鄉よ之ゆ。曲禮云禮從宜。
使從俗。又云。入竟而問禁。入國而問俗。見
ゆ乃流。儀よ入くハ。ゆ後よ之なる
ん。前漢書王吉傳。百里不同風。千里不
同俗。とゆ。之ゆ。見ハ風俗ゆ地よりて
異なれハ。鄉よ入くハ。ゆ乃俗ゆ後へ
ざるめやハ。 新考

神ハ正邪の能よやどりの人　倭姫世記

云。天照大神託宣。眞於加仁正仁直奈留於以天本登寿

○詩經小明篇云。嗟爾君子。無恒安息。靖共爾位。好是正直。神之聽之。介爾景福。新考

鑰の穴〳〵天をのぞく　莊子云。用管窺天。用錐指地。不亦小乎。新考　說苑云。以管窺天。以針刺地。所窺者甚大。所見者甚少。是後の云ふ

論語　詩經邶風終風篇云。寤言不寐願言則嚏。註云。我甚憂悼而不能寐。汝思我心如是。我則嚏。今俗人云。人道我。此古之遺語也　○野客叢書曰。隨筆曰。今人噴嚏不止者。必嘆嚏祝云。有人說我。按詩寤言不寐願言則嚏。注。女思我心則嚏也。今俗人嚏云人道我。此古之遺語。余觀類要篇風篇正有此說。朱子曰。嚏軌嚏也。人氣感

傷閑鬱又爲風霧所襲則有是疾也。又波部よ

好事門をいでゝ惡をなすこと北夢瑣言云。好事不出門惡事行千里

好事をなす人はよいもの陳眉公十書。

多少箴云。好事不如無新考

新よ似ぬこゝろ

人吾失之子羽子羽澹臺滅明也貌はゞ

しくこゝろ行たらしこゝろ新考。又班

固漢書贊ヨ。人面獸心と云事をうけ

て。元ハ小人毎史ハ新ハ人ゝ人ハ殺

ハめしと云ふ。伏羲ハ蛇身人首。神

農ハ人身牛首と云ふ。元紀みよ記せり。

ハ。形ハ人ハ殺鳥孫ともたよ大聖人

なり。元こゝろ新よ似ぬものなし

ゝ。新考

蟹ハ甲よ似せて穴ヲ作る。は後のこゝろ

ハ落事。新ゝ大小廣狹皆ことゝ分ゝ

なんとそうもこれは教せる事なり。

事文類聚後集曰。有客相從各言所志。

或願爲楊州刺史。或願多貲財。或願騎

鶴上昇。其一人曰。腰纏十萬貫。騎鶴上

楊州。欲兼二者矣

鶴のなりさとの

不義不善をなして

と。祈りをなすものを云。其元遠

事なり。楊老遠ざかる方人魂魄を祈る

事をなす人をいふ。楊老の慙鶴ハ

なりと云事。十廣孔後甲乃ゆしと云

なるなり。後ちなお教せる云之。

偕老同穴乃契　詩經擊鼓篇云死生契

闊與子成說執子之手與子偕老又君

子偕老朱傳ハいへるハ君子ハ夫なり偕

老ハともに生死ともに死ぬるを云。女子乃乃

一ツ心なるを夫婦ハ心れと

同じく生同死ぬ。一ツ死して夫死してハ。

ぬ人同称しなく未亡人と云。再他人ハ

まことゆへ、さ程なりし。そもを偕老乃契と
云こと。老い生死乃界なるゆへ。偕老しいへ
ども。生死を偕ともるの義こと。詩経大車
篇穀則異室死則同穴朱傳よいへるハ。
穴ハ壙こと。これハ男女淫奔乃志遂すれ
ども。もとより。ひとつ穴に葬ること。
なく。室家を同せんなハ必合せ
葬られなく壙を同せんとこそ。偕老
乃貞女乃道。ことハ同穴ハ淫奔乃法なり。

鵠鳴

俗語

俗語。偕老同穴とつゝくるハ。
ものとこそ。
鵠。容齋隨筆云北人以烏聲爲喜。
鵠聲爲悲。南人聞鵲噪則喜。聞烏聲則
唾而逐之。至於弦弩挾彈擊使遠去
可愛人をいとおしいとハ。
神代紀。妍哉可愛乙女。
えてぬこ乃詞。男乃女をこゝ
ろとうくる可愛しいふを。ほやまりて

かゝゆきことを云之

かゝみありし作者ありて上師もろ。赫夜

姫のよまいに燕のもてる子やす

貝をとらんとてつばくらめの巣に手

を入たれバつばくらめなかとのはりけると。

まさらすまして。しかられと悦びて

をとりきこえけれバ。つくくめのま

つかれけるみかくそ。それをもんとはな

かひなきのことざやしといひもしたりとふなは

たからをうむことなしといふ心はしまし

いと定まるし。俳者説のあしくたまら

ん。無貝ともいふべきや。

我慢 法華經云我慢自矜高

覺悟 史記項羽傳尚不覺悟

合戰 史記高祖記且日合戰

整頓 史記陳餘傳整頓其士

改易 漢書宣帝記至于子孫終不改易

瑕釁 史記魯仲連傳出 亦作瑕璺

降服　左傳僖公傳云。降服而囚。杜注云。去上服自拘束以謝之

家財　史記匈奴傳に出たり

形見　饒速日尊妻御炊屋姫に及ぶ

云。汝子吾らが形つゝ祀とせよとて。

天璽瑞寶を授くゝ云。舊事記に

同じ。遊仙窟に記念をかゝことよめる。

又信乃字をもくゝ云ふ。白氏文集

に同じ。

勘當　俗に。罪人の過を問ふを勘當と云ふ。

を勘ふ。推ふ。

唐書軍中不暇勘當とあり

神保　詩經楚茨篇云。先祖是皇神保是

饗傳云。楚辭所謂靈保亦以巫降神之

稱也。

看病　日本紀神功皇后記に出たり

江帥　匡房。大江匡房。大宰帥となる

源有江帥と云。江家次第。江流などと云
事を皆匠房の他に抱きもてにて
なり有よせてよかうそれたりと云詞を
江帥の字と云るはせりと仰せ
今りけるものと云ふかうそれの勅せ
源之又苛察の字を用も強へ。下
よりくり
苛察　漢書文帝紀云。文帝詔云。以苛爲
察以刻爲明令亡罪者失職

肝心　五臓の中。心の脳は神をうつ。肝は
魂をうつ。心は肝をうつ。肝は
乃後はとれり。隋史文帝謂陳叔寶全
無心肝。こまを。大切のよくうつ。
渇く　字彙渇口乾欲飲之義。俗は貪し
くもとめるを。渇くと云。
毫末　老子云。合抱之木生于毫末。
簡畧　韋應物初爲尚書郎別集福精舍
詩云。簡畧非世器。柔身同草木。逍遥精

舍居飲水自爲足書言故事

行跡　宋書潘綜傳陳其行跡

開闢　楊子法言開闢以來

荷擔　法華經云爲如來肩所荷擔者

人ハ黨ヒトヲ荷擔トス云

岩棄　信ヨ不ル強健ナラヲ岩棄ト云

惡不ル善ヲ棄ル惡ヲ善ヲ棄ル

弱ナリ　拙ナリ　使ナリ

強盛　強の字強盜と使ルなり

搔首　詩經靜女篇愛而不見搔首踟躕

今信ヨ拙ナリ　ヒトヲ拙ナリ

ヒトヲ使ナリ　ヒトヲ使ハヌヲ

ヒトヲ使ハヌヲ　ヒトヲ使ハヌヲ

合黥　信ヨ　ものを云ふ

肯ふ　合黥と云　唐史云屈突通仕隋

文帝與漢王諒約若璽書召驗敕字加

黥則就道帝立召諒無驗諒覺變色

今いつ合黥ノ　なれば加黥ていそん

ごとくなり

乞兒（カタヒ） 源順（ガ）和名抄よ。乞兒をかたいとよめり。伊勢物語よ。かたい者（モノ）と侍り。日記よ。こゝらしらは。日をゐたりけるに。いるりとゐるに。皆人を罵（ノル）詞よ用ゐ。をゝ〳〵乞丐人を云へり。今俗よ。癩病人（ライヒヤウニン）を呼（ヨバ）ゝかたいと云（イフ）ことのやまりこ。

渴仰（カツガウ） 口乾（カワイ）くあををとゝがめ。くるしをいを仰（アオ）ぎめ。菓子を俗よ渴仰と云。

囲繞渴仰（イネウカツガウ） いかゝこゝめぐりて慕（シタ）ふこ。

蔭（カゲ） 晉書陸玩傳（ムツ）莫不蔭其德宇文先祖乃功勞よりく。蔭（カゲ）を蔭（カゲ）と云（イフ）ことよ。人を教むるを蔭（カゲ）と云。源氏物語菓子よ。くれをゝのむかげよ。くゝのしをゝんとをゝん。河海抄よ。ゝむ人乃ゝ立ゝ。ゝ立ゝ。ゝのむかげ。ゝをゝゝ。

欠（カシ） 拾遺年中行事よ。欠（カシ）を年中行事よ。ゝゝと欠（カシ）と云。居家必用註短欠謂正

數不足也。又曰。折欠謂物料虧短者。
加減酒を勝むるをうんと云へ。加減の
中畧之。茶を煮る者。薬を加ると云
火とも。減らすと文火とも。一切万物を
おくるよ。皆は加減なり。加減通中畧を
いつも略とも云。
んと云。燈は香をとゝ釜は茶を通
涼時は火加減。の加減と云よりて
なりやゝまた酒の加減乃こ中畧せる

有り。疑はしきもの。酣乃字間の字なるを
るとも云。襲従はるゝ。ポは寄らば
勘 拋を考らるゝをうんと云へば字なる。
説文云。勘校也
駻 馬突也。るんのつきと云へば字
なり。
我他彼是 人乃多くはつまる事なり。
彼是めくるを。これはまるけそひ
推量らるこ。拋乃時をうくと云へ。我

他乃字之略なり大小別系なる呼言を
いくつかを多くなる。我他俱化なり。
彼と他とは色化なるなり。かくの如
さとのなることくの如くなることと
くの如くにごるものの乃略なりけり
つどりなりと云ふ或ハ小さとの。或
ハ色さとの係よ為なるかくの如く解
蜂なるものなる言ごそくの鼠乃り言
なり。かくのごとくごそくの文言お色

より轉じ来る。ふたよ我他乃字なり。
文字張りつくく。称呼者より反ぶ言を
くくの系なり。
合期　本朝文粹大江匡衡文云。撫民治
國致合期之勤。東鑑云。進退未合期
假寐　詩經小弁云。假寐永嘆。又左傳宣
公十四年ヨリ出ル
沈肩　漢書路温舒傳。被刑之徒。沈肩而
立。又文心雕龍十卷才畧篇云。傳毅崔

駰光采比肩　又併肩の字ハ史記田儋が傳よりいでゝ

旱魃　詩經雲漢篇云。滌々山川。旱魃爲虐。朱傳云。魃旱神也。今俗にひでりを旱魃といふ。

愷樂　軍勝之樂。禮大司馬。王師大獻則令奏愷樂。司馬法曰。得意則愷樂。

艱難　書經無逸云。稼穡艱難。

豪傑　孟子滕文公篇云。彼所謂豪傑之士也。註。豪傑才德出衆之稱。○淮南子云。智過百人謂之豪。白虎通云。賢萬人曰傑。

塡廓　楊升菴外集云。六朝人尚字學。摹臨特盛。其曰塡廓者。郎今之雙鈎。

荷負　左傳曰。古人有言曰。其父析薪。其子弗克負荷。此語より父の業を子の繼ぐを負荷と云。今俗に代々續きたる家をも荷負の人荷負の家なりといふ。

邊鄙　張平子西京賦ニ出タリ。注ニ杜預左氏傳注云。鄙邊邑也

文くれがたの庭さんとそいうるくるくるこそんやとをくまし　仲正

高聲　韓退之詩爲我高聲謳

可畏　日本紀ニ出タリ

苟且　韻會云。草率也

開基　魏何晏賦ニ雙言天地開基並列宿而

作制　俗ニ孝堂を創建とをくを作堂

嘎字彙云。聲破也。老子云。終日號而不

嘎

酒　月令ニ仲秋水始涸

閑居　孝經云。仲尼閒居　潘安仁有閑

居賦　文中子云。樂閑居

高位　孟子云。仁者宜在高位

巧者　俗ニ拙ヨリ巧ナリを巧者と云。稱

くくと拙者くくと云ふを対とす

雜

張平子が西京賦云。鬻良雜苦。雜を
古文かてゝと読まり。拙をまゞらかす
ゝ上林賦に。八の糅の字をてゝと
よませり。

籠孤よ八系つゝてゝと称ぶ
系
まれなる人世そゝぎ乃はれりの　長忌寸意吉麿

考問

史記伍子胥傳よりゝ拷問と
と書。居家必用曰。拷掠。漢法謂榜笞而
問也。字彙拷打也。乃疑さと撞ぶし

く問を拷掠ともいふ。拷問ともいふ。

寒心

史記前軻傳足爲寒心索隱曰。凡
人寒甚則心戰。恐懼亦戰。今以懼譬寒。
言可爲心戰

軻遇

神代卷云。次生火神軻遇突智時。
伊弉冊尊爲軻遇突智所焦而終矣。火
神を軻遇突智と云。俗よ。拙乃こゞれく
さゝを。ぐゝさゝとん。軻遇臭こ

加持

野槌よ曰。加とは佛乃三密こ拘と

い行者の三業をつゝしまんとをもひ三業を
わらをかはらしめんとなり。

堪恐　佛經に。娑婆世界を堪忍土と云。
詞ハ。此土刹強ものびゝ
さまをいふ。ものいくなをとり。
かゝるこゝろ　原氏帚木をはゝ
多解ものしたくのをいふと
はゝ。ものをいふ。偏腹痛の字を用へし
任雅意　埃囊抄に。雅ハ素也。我思ひ設

るひゝ事をもれたり。雅のゝ字ハ但すゝ義なり
とあり。我意に任すといたんと也。

閑素　何氏語林云。慕其閑素

厚恩　魏書云。蒙國厚恩

海道　元史納麟傳云。由海道入朝。至于水分。俗ハ。陸路を海道と云ハあり。

街道　といんゝ

感悅　宋史趙雄傳云。諸蠻感悅

遐邇　とゝ。とよあり。俗ハ。地の大ハちゝひゝるをもかゝるゝと云

六字ろく

篝火　史記陳涉傳。夜篝火。註。篝籠也

櫟　史記楚元王世家云。烏羮美盡櫟金。索隱云。音歷謂以杓歷釜旁使烏聲漢書作轢

間暇　孟子云。今國家間暇

簡要　晉書鍾會云。王戎簡要

啓行　詩經公劉篇乃出啓行

幸甚　史記晉世家。二子頓首曰。幸甚幸甚

甚文選李陵答蘇武書曰。榮問休暢

正譌

檢校　日本紀の卅九

甚幸甚

正譌

舟舟は二字。たゞ一点のちがいまして仮名。あるいは舟舟せぬとも。おなじ舟を舟舟せぬとも云。おなじ舟を舟舟せぬと云ハ誤

構　まして。かん　嘗　ハ誤

水虎　ハ誤　頑者　ハ誤　獺　川うそ　ハ誤

了髻　ハ誤　剃刀　ハ誤　蟹　蚤誤

恰好　恰好のよきこと。恰好のよきこと云ハ誤

諺草巻之二終

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan